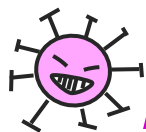


感染症に気をつけよう!!

2023年7月号

横浜市衛生研究所
感染症情報センター 7月3日発行



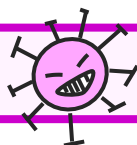
横浜市内の感染症流行状況



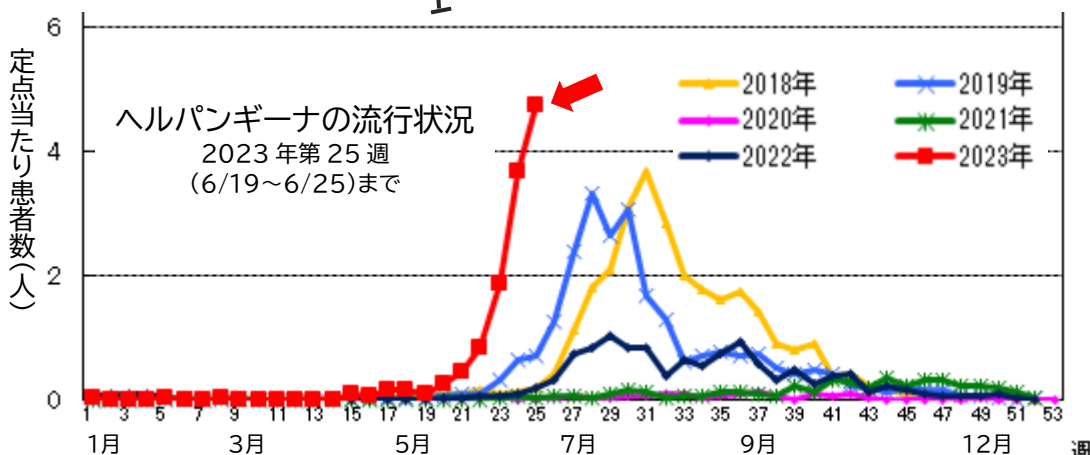
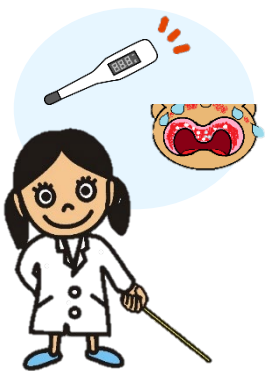
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
梅毒**	発生	横ばい	20～50代を中心にして、報告数の多い状況が続いています。【 政府広報 動画 】【 無料 匿名検査 】
腸管出血性大腸菌感染症**	発生	増加	患者数が増加しています。集団感染の報告もみられます。【 19.9号 】【 ちらし 】
新型コロナウイルス感染症*	流行	増加	5月8日以降、患者数の報告は 定点報告 に変わりました。幅広い年齢層で報告されています。
ヘルパンギーナ*	流行	増加	夏かぜのひとつです。5月下旬から急増し、過去6年間で最も多くなっています。【 16.8号 】

* 国立感染症研究所 ** 厚生労働省

今、気をつけたい感染症



ヘルパンギーナ



ウイルスが原因です。突然38～40度の熱が出て、のどが赤くなり、のどの奥に小さな水ぶくれ・潰瘍(かいよう)ができて痛みます。通常は1週間程度で治りますが、まれに、髄膜炎などの合併症が起こることもあります。発熱・頭痛・嘔吐がひどい場合は、早めに受診しましょう。

咳のしぶきや便に含まれているウイルスから感染します。症状が出てから4週間頃まで、便からウイルスが排泄されます。ワクチンはなく、予防にはうがいや石けんを使った手洗いが大切です。(アルコール消毒は効きにくいです。)

